



きりえ「春のひざしをあびて」(ダイゼン): くすだひろこ

希望に向かって!

新年 おめでとうございます!!

2020年1月

和白干潟を守る会の環境保全活動は、32年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けてくることができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。昨年は長年和白干潟のクリーン作戦を続けてきたことにより、「海の日記念式典」で国土交通大臣表彰を受けました。世界でプラスチック海洋ゴミが問題になっています。和白干潟を守る会でもゴミ削減を呼び掛けていきたいと思えます。国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)推薦子ども向け図書が「生物多様性の本箱」として103冊寄贈されました。「和白ひがた文庫」として今後広めていきたいと思えます。第31回目の和白干潟まつりは、残念ながら雨天中止になりました。30回続けて来て、初めてのことです。今年こそは楽しい和白干潟まつりを開催したいですね。

ミヤコドリは今冬は20羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも14羽を確認しています。ツクシガモは208羽を確認しました。

2020年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。32年目の今年も、和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方が和白干潟の環境保全活動に参加して、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています! 今年もどうぞよろしくお願いいたします!

第31回 和白干潟まつりは、雨天中止になりました！

2019年11月24日（日）に予定していましたが第31回和白干潟まつりは、残念ながら雨天中止になりました。30回一度も休みなく続けてきましたので残念でありませんが、野外活動なので危険を考えて中止にしました。過去に2回は雨天でも近くの集会所を借りて縮小開催しましたが、守る会会員の高齢化もあり、お世話係が減って2ヶ所で開催するスタッフが足りず、中止にしました。準備や応援いただいた皆さん、ありがとうございました。

第30回干潟まつりより、タッチプールとお絵かきコーナーや自然遊びコーナーもでき、31回目も楽しみにしていました。会場整備にあたっては、(株)環衛サービスの方々にご協力頂きました。ありがとうございました。今年こそ楽しい和白干潟まつりが開催できますように！
(実行委員長：山本廣子)



準備作業 (11/23)
海の広場前のアオサの清掃作業をしました。



準備作業 (11/3)
会員の環衛サービスの皆さんが海の広場の草刈り作業をしました。



準備作業 (11/23)
写真展やパネル展示のためのパイプ組み立て作業をしました。



準備作業 (11/23)
会場整備。テントや店舗の場所確定作業をしました。



香椎保育所観察会パネル
観察会の様子と子どもたちの絵のパネルです。展示予定でした。



和白小学校観察会パネル
観察会の様子と作文のパネルです。展示予定でした。

福岡市長からのメッセージ

(事前に頂いておりましたので、掲載させていただきます)

第31回和白干潟まつりの開催をお喜び申し上げます。和白干潟まつり実行委員会の皆様をはじめ、参加者の皆様におかれましては、長年にわたり、干潟の清掃や自然観察会など、和白干潟の環境保全活動に取り組んでおられますことに、心より敬意を表します。

今年は、G20の開催など海洋ごみ問題が大きく取り上げられた年でした。特に海洋プラスチックごみは、私たちが日常生活で使用したペットボトルやレジ袋などが原因のひとつと言われており、使い捨てプラスチックを使わないなど、市民一人ひとりがライフスタイルを変革していくことが必要であると考えております。

福岡市では、第二次博多湾環境保全計画に基づき、「生きものが生まれ育つ博多湾」の実現に向け、市民、NPO等市民団体、事業者、大学等研究機関など、各主体との共働による博多湾の環境保全施策を進めているところです。

今まで以上に、博多湾の環境保全の取り組みが広がり、和白干潟の自然が次の世代に引き継がれていくことを祈念いたしております。

令和元年11月24日
福岡市長 高島 宗一郎



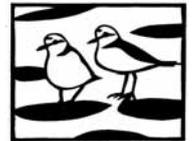
「和白ひがた文庫」開設

2019年9月25日、国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）推薦子ども向け図書「生物多様性の本箱～みんなが生きものとながる100冊～」の103冊が寄贈されました！日本自然保護協会が推薦を担当し、環境省事務局の国連生物多様性の10年委員会（UNDB-J）の中核団体として、図書寄贈の受け入れ施設・団体の推薦を受けました。寄付元企業のひとつトヨタ自動車KKより今年度の寄贈活動として福岡県内にて、ぜひ和白干潟を守る会・海のきりえ館に寄贈させて



いただきたいとの希望をいただいたそうです。これらは幼児～中学生向けの絵本や図書、図鑑、写真集です。「和白ひがた文庫」と名付け、現在は和白干潟を守る会会員やその子どもたちに貸し出して、読んでもらっています。今後は多くの子どもたちや大人の方にも読んでいただくイベントなどのアイデアを広く皆さまに募集したいと考えています。良い案がありましたら、ぜひ和白干潟を守る会までお知らせくださいね！（山本）

祝！蒲生を守る会活動50年記念シンポジウムのお知らせ



蒲生干潟の現在 2011-2019

日時：2020年2月9日（日）10:00～16:00 入場無料

場所：仙台市市民活動サポートセンター6F セミナーホール（仙台市青葉区一番町四丁目1-3）

プログラム：
 ・10:00～12:00 震災後の蒲生干潟の現状について、鳥類や干潟の生き物など
 ・13:15～14:50 蒲生干潟をめぐる課題と展望、蒲生干潟の抱える諸問題など
 「博多湾・和白干潟から、干潟を守る思い」・・・山本廣子が話します。
 ・15:00～16:00 パネルディスカッション・・・山本廣子も参加します。

交通案内：地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ

問い合わせ先：蒲生干潟を守る会 TEL 022-223-5025

宮城県の近くにお住まいの和白干潟を守る会会員の皆さんへ。ご参加いただくと嬉しいです！！
 （山本）

開発で雁ノ巣干潟の一部が無残に破壊



11月に、海の広場の対岸にある雁ノ巣干潟の一部が破壊されていることがわかりました。雁ノ巣干潟は和白干潟の一部で、絶滅危惧種のおカミミガイやキヌカツギハマシイノミガイ、ハマガニなどの生息場所です。干潟は福岡市のエコパークゾーンに指定されていますが、民有地は近年住宅地として開発されました。隣接する松林が売却され、その先の干潟部分が破壊されていました。早速県に問い合わせ、事情を聴くと、アシが生えていては建設予定の別荘の景観が悪い（立花山が見えない）ということで業者が掘削した（四角に切り取っている）ものだそうです。公有地である砂浜は県の委託管理であるので、許可なく掘削したり工作物を立ててはいけないという「海岸法」に違反しています。福岡県は業者に指摘し、県として砂浜を元の姿に戻す（現状回復させる）よう求めました。業者は原状回復することを承知し、2020年1～2月に埋め戻しをしようとしています。しかし県としてはアシを植えるところまでは求められない、貴重な生物云々のことはわかったが、法律的には「海岸法」の適用までであるとのことでした。県として自然を守るよう頑張ってもらいたいと要望しました。和白干潟を守る会は12月3日、7名で現地を調査し、無残な干潟に心が痛みました。今後、他の保全団体とともに県や市に環境破壊せず、生態系を守っていくよう働きかけていきます。

和白干潟の自然だより(秋～冬)

(山本 廣子)

センダンの実 センダン科



センダンの実

センダンは暖地の海岸近くに生える落葉高木です。和白干潟を縁取るように、沿岸に多く生えています。初夏に薄紫の小さな花がたくさん咲きますが、秋には楕円形の黄色い実が生ります。葉が落ちた冬には、陽光を受けて金色に輝いています。小鳥たちには余りおいしくないのか、春近くまで長く見られます。センダンの木は葉が落ちた後の葉痕も、サルの顔がたくさんついているようで可愛いです。

和白干潟のアシ原では、センダン以外にもシャリンバイやトベラ、アキグミなどの実がたくさん実っています。アシ原の中道を歩くと、小鳥の声も聞こえてきて豊かな気持ちになります

ホトトギスガイ イガイ科 殻高20mm

殻は薄くて、殻表に鳥のホトトギスの胸の羽の模様のような紫褐色の斑紋があります。日本全国の内湾や汽水域に生息し、時に足糸を絡み合わせてマット状の大集塊を作るそうです。和白干潟では、アオサが大発生した時に、打ち上げられたアオサにたくさんついて発生していますが、水温が下がりアオサが分解してくると、ホトトギスガイは見られなくなります。アオサ発生の時期に目立つ貝です。ホトトギスの羽の模様はこんなものだろうかと思像しながら見えています。アオサの異常発生が見られなかった昔には、見たことが無い貝です。



アオサとホトトギスガイ

ヨシガモ カモ科 全長：48cm



ヨシガモ

ヨシガモは冬鳥として和白干潟に訪れています。雄は姿が美しいので、容姿の良いカモで、ヨシガモと言うとか。緑色の頭、白いネックレス、銀色の胸、腰の両側に黄色い模様があります。和白干潟への飛来数は多くはなく、毎年100羽前後がカウントされています。特に唐原川沖で良く見られます。アオサを食べているところも見ますが、貝類や水生昆虫も食べるそうです。雄の頭は後ろに大きくて、ナポレオンの帽子のような形をしています。雌は茶色っぽい地味な色合いです。淡水ガモとしては潜るのが上手だそうです。

冬の和白干潟のしぜん

和白干潟は、日本では2ヶ所しか残っていない自然海岸のある干潟です。冬のアシ原ではクコやノイバラ、シャリンバイ、トベラなどの木の実が豊かに生っており、シロハラやツグミが見られます。ウグイスの地鳴きも聞こえます。ハマシオンの綿毛やアシの穂もホクホクにふくれて、アシ原の中は暖かです。大都会福岡市の中にこのような干潟の原風景をとどめる豊かな自然が残っていることは、貴重なことだと思います。未来の子どもたちにぜひ残したい自然ですね。

冬の和白干潟には北西の風が吹きつけ白波が立ち、引いた干潟には砂紋が美しく残ります。寒いのでウミナも干潟に潜ってしまい、何もいない砂浜に見えます。12月には冬鳥がそろいました。淡水ガモ、海ガモ、カイツブリ類、シギ・チドリ類など。ミヤコドリは20羽、クロツラヘラサギは最大14羽、ツクシガモは208羽を確認。今冬は暖かめでアオサが12月にも残っていましたが、12月末の低温ですっかり減ってしまいました。アオサを食べるヒドリガモも減ってしまいました。

10/6(日) 「唐原川お掃除し隊」(山・川・海の流域会議主催) 今年も秋に

唐原川上流の九州産業大学学友棟付近と下流の浜田橋付近の2ヶ所に分かれて、香住丘校区自治会関係者、九産大生、和白干潟を守る会など36名で実施しました。昨年までの春開催から秋に変更し、参加者は昨年より少なく、ゴミの回収量も上流では前回の半分以下でした。これは今年5月に一度九産大生とゴミ回収していたためです。下流域では丸太や鉄パイプなどの粗大ゴミは相変わらず多かったです。上流では最後に立花山グリーンガイドの会副代表の磯野さんから、プラスチックゴミが与える環境への影響や川にゴミを捨てないことの大切さを話して頂きました。下流でも唐原川を考える会の中山会長から、参加者の地域の皆様にお礼の挨拶があり、集合写真を撮り解散しました。(松田)



11/1(金) 海ごみ対策地域リーダー養成講座「容器包装をみなおそう！」 で和白干潟の現状報告



「ワーカーズ・ゴミ問題研究会」と「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」主催で開催され、基調講演「容器包装を見直そう！海洋プラスチックごみ削減に向けて」では「容器包装の3Rを進める全国ネット」運営委員長の中井八千代さんが、現状とプラ製造業者もその責任を負う「拡大生産者責任」を広げる法律改正を急ぐべきだと話されました。「和白干潟を守る会」山本廣子代表が、和白干潟における年間のごみの種類や集計などのデータを紹介し、ボランティア参加者が増えればごみ拾いの範囲も広がりごみ回収量が増えていること、観察会では必ずごみ拾いをし、子どもたちへの教育と啓発も進めていることを話しました。

11/26(火) 九産大・地方行政論・宗像ゼミで特別講義 「和白干潟の自然を守ろう！」熱弁

山本代表が子どものころから現在までの和白干潟の様子、和白干潟の自然、和白干潟を守る会の保全活動を、パワーポイントを見てもらいながら話しました。講義には2択クイズを盛り込み、興味を持ってもらえるように工夫をして話しました。最近雁ノ巣海岸が一部の業者により壊されたこともあり、早くラムサール条約に登録されて守っていききたいことや、ゴミデータ調査には宗像ゼミからも参加してもらい助かっていること、今世界中で問題になっている海洋プラスチック類のゴミ問題にも触れて、和白干潟や地球の自然を守ってほしいと話しました。(田辺)



12/1(日) 「バードウォッチング in 和白干潟 2019」 (和白干潟保全のつどい主催) は大満足



今年は風もなく暖かな日差しに恵まれ60名の参加がありました。家族連れの様子が目立ちました。子どもたちは開会での説明が待ちきれないように望遠鏡に駆け寄り、貸し出しの双眼鏡でも代わる代わるゆっくり観察できてにぎやかでした。人気のクロツラヘラサギ、ミヤコドリ、ツクシガモ、ダイシャクシギ、ヒドリガモ、ウミアイサ、ミサゴも見ることができました。沖のスズガモの群れ、マガモやオナガガモ、ヨシガモなどの淡水ガモたちもたくさんいました。途中ミヤコドリが群舞し、みんな喜んで眺めていました。最後にビンゴの景品の「四季の和白干潟の写真下敷き」を渡しました。

気が付いたらあなたも電話してください！

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港局維持課)

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (港湾空港局環境対策課)



** お 願 い !! **

干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう！

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係

●2019年9月

- 9/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 9/10 (火) 2019年秋期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 9/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 9/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
アジア文化賞大賞受賞の社会学者
ランドルフ・ダビッド氏和白干潟を視察
- 9/13 (金) 2019年秋期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 9/14 (土) 山・川・海の流域会議参加
アオサのお掃除大作戦1回目(保全のつどい)
- 9/23 (月) アリの見分け方研修会
(日本自然保護協会と共催)
- 9/24 (火) 和白干潟通信132号編集会議
- 9/25 (水) 2019年秋期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
「生物多様性の本箱」103冊が寄贈された
- 9/26 (木) 筑陽学園中学3年生の校外理科学習
- 9/27 (金) NHK学園の和白干潟観察会
- 9/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 9/29 (日) アオサのお掃除大作戦2回目(保全のつどい)

●2019年10月

- 10/6 (日) 唐原川お掃除し隊(山・川・海の流域会議)
- 10/8 (火) 和白干潟通信132号発送会
- 10/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/11 (金) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 10/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 10/26 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/27 (日) ダンロップグループの和白干潟観察会とクリーン作戦
- 10/29 (火) 和白干潟まつり第2回実行委員会

●2019年11月

- 11/1 (金) 海ごみ対策地域リーダー養成講座
「容器包装をみなおそう！」で和白干潟報告
- 11/3 (日) 干潟まつり準備の為の海の広場の草刈り
- 11/8 (金) 柏陵高校1年生の和白干潟観察会
- 11/9 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 11/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 11/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 11/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/16 (土) 探鳥会リスクマネジメント研修参加(日本野鳥の会)
- 11/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と干潟まつり会場整備
- 11/24 (日) 第31回和白干潟まつり(雨天中止)
- 11/26 (火) 和白小学校5年生の和白干潟観察会
九州産業大学宗像ゼミ特別講義「和白干潟の自然を守ろう！」

和白干潟の2019年6大ニュース

1. 海の日記念式典で国土交通大臣表彰を受ける
2. 第31回和白干潟まつり初めての中止
3. 「和白ひがた文庫」開設
4. 自然観察ガイド講習会
「カニの生態を学ぼう！」開催
5. アリの見分け方研修会
(日本自然保護協会と共催)開催
6. アオサが冬になっても増えるほどに多かった
(2019年12月21日の定例会議にて)



きりえ「風のように(ミヤコドリ)」

★ご案内★

くすだひろこ きりえ展 和白干潟の風

日時：2月3日(月)～2月28日(金)
9:00～15:00(土日祝休)
会場：西日本シティ銀行和白支店
福岡市東区和白丘1-1-8
TEL：092-607-6621

★和白干潟のきりえ作品を12点展示
します。ご高覧をお願いします。

干潟のつばやき 「ハマシギさんが来てくれて良かった！」

和白干潟は渡り鳥の中継地、越冬地として有名です。冬になるとたくさんのかもたちやシギ・チドリたちが越冬のために訪れます。和白干潟を訪れるシギ・チドリたちは、1991年には1500羽ほどだったのが2003年には1000羽に、2007年には500羽にと段々減ってきています。2017年には一旦1000羽台に回復したかと思われましたが、2019年はついに114羽になってしまいました。干潟には鳥たちの餌はたくさんあるのにどうして来てくれないのかと考えてしまいます。そんな11月の下旬でした。雁ノ巣海岸の浜辺を餌をついばみながら移動する鳥の集団がいました。よく見てみると110羽のハマシギとダイゼンの群れでした。最近姿を見ることがなかったので和白には来ていないのではと思っていましたが、ちゃんと来ていたんですね。ハマシギさんが来てくれて良かった！



ハマシギ

和白干潟の観察会報告

(今村 恵美子)

10/27(日) チームエナセーブ未来プロジェクト(ユネスコ協会連盟とダンロップグループ)の和白干潟クリーン作戦と自然観察会



夏のような日差しの晴天の一日。約50名の親子が参加。昨年はおアサがたくさんあって、体力が必要だと痛感したので、今年は工場のある宮崎県都城からたくさん参加者を誘ったとのこと。観察会ではクロツラヘラサギが6羽、水の中で餌を探す姿が印象的だったようです。紅葉し始めたハマツナを少しかじって塩生植物を実感。砂州ではコメツキガニがたくさん出ていたので、簡単に捕まえることができました。アオサは唐原川近くのアシ原前に集まっていて、水気を含んだ緑のアオサはそこに山盛り載せて遠くの集積場所まで運び、78袋ありました。

11/8(金) 県立柏陵高校環境科学コース1年生39名と先生4名の生物探究校外実習

秋晴れの爽やかな日でした。干潟の話はみんなメモをとりながら聞いていました。バードウォッチングではクロツラヘラサギを見ました。とても小さいガザミ、オサガニ、ハゼの子などいつもの観察会では見過ごしてしまいそうなものもよく見つけていました。さすがに高校生。砂の色による砂の成分の違いや水質について説明するとメモをとっていました。最後にプラスチックごみについての話もしました。生徒たちは環境科学科コースのクラスだけあって、まじめで熱心に観察していました。「将来、環境を守る大人になってほしいなあ」と思いながら、生徒たちを見送りました。(有江)



11/26(火) 和白小学校5年生128名と先生4名の秋・冬の和白干潟観察会



雲一つない青空に紅葉がきれいで、暖かい日でした。バードウォッチングではクロツラヘラサギがいるのが望遠鏡ではっきりと見えました。紅葉したハマツナやハマボウ、センダンの葉痕、ハマウドの芽、小さな卵のようなハマユウの白い実、黒いシャリンバイの実やセンダンの黄色い実などを見ました。潮が引いた砂地に鳥の足跡がありました。「ここも足跡ゾーン、さっきまで鳥がおったところよね」と子どもがつぶやいていました。「通った場所(アシ原)が暖かかったことが一番よかった」という感想がありました。和白干潟の秋の自然に触れ、楽しいひとときを過ごした子どもたちは元気に挨拶して、学校に帰って行きました。(有江)

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！！

★8/26「和白東レインボークラブ」様より寄付金を頂きました。

★新年度会費の納入をお願いいたします！

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

★年会費 個人2,000円、団体5,000円
★郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会



★同封の振替用紙をご利用下さい。
※郵便局の受領書を領収書に替えさせて
頂きます。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

◎入会/観察会(申込等)・・・山之内 芳晴
◎クリーン作戦・・・田辺 スミ子
◎広報/調査/定例会議・・・山本 廣子
◎干潟まつり・・・今村 恵美子

Tel 090-8412-2663
Tel 090-1346-0460
Tel/Fax.092-606-0012
Tel 090-3413-6443



和白干潟を守る会 2020年度総会を開催します！

日時: 2月22日(土) 12時半～14時 場所: 和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などをみんなで意見を出し合い決定します。(引続き2月臨時定例会議を開催します)

定例スケジュール

定例会議(1/25, 2/22, 3/28)

毎月第4土曜日12時半～14時半 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所・・・福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待っています！

クリーン作戦と自然観察(1/25, 2/22, 3/28)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

和白海岸探鳥会(2/9, 3/8, 4/12)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合

参加費: 野鳥の会会員 100円、一般 300円 主催: 日本野鳥の会福岡支部



会員募集中!

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録等)、観察会のお手伝い(写真撮影等)参加をお待ちしています!



和白干潟の鳥たち(その89) [全長 74 cm]

クロツラヘラサギ(トキ科 Black-faced Spoonbill) 黒面篋鷺

国: 絶滅危惧 B類・福岡県: 絶滅危惧 B類



(撮影: 三宅 僚)

クロツラヘラサギは、冬鳥として、また旅鳥として和白干潟に訪れています。最初に和白干潟で観察されたのは、1997年の2羽です。それからは毎年4～9羽の記録があります。1990年の世界での記録は288羽です。2020年の現在では、世界で4000羽を超える羽数が記録されています。短期間に増えたのは、羽数が少ないクロツラヘラサギへの保護が高まったこともあるでしょうが、その姿の可愛さから多くの方の関心を引いたのではないのでしょうか。和白干潟への渡来数は40羽を超えたこともありましたが、現在は10～20羽程が毎年渡来しています。主に河口付近で嘴を振りながら小魚を獲っています。昼間は寝ていることが多く、潮が動き出すと起きて魚獲りをしています。少し大きめの鳥なので、カラスにもいじめられずに、健やかに過ごしています。(山本 廣子)

【編集】山之内 芳晴・有江 圭子・田辺 スミ子・今村 恵美子・山本 廣子

<カット>くすだひろこ

次号は2020年4月発行予定



【編集後記】昨年は和白干潟まつりが開催できず、残念でした。今年はどうなことができるでしょうか? 楽しい企画を考えていきましょう。和白干潟まつりも開催できますように! すばらしい一年になりますように!! (山本 廣子)